

■発行／南方熊楠顕彰会

〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913
http://www.minakata.org/ 〈E-mail〉minakata@mb.aikis.or.jp

自筆資料に見る南方熊楠…………… 15

南方熊楠書入の『文正草子』

文／伊藤慎吾（國學院大學非常勤講師）

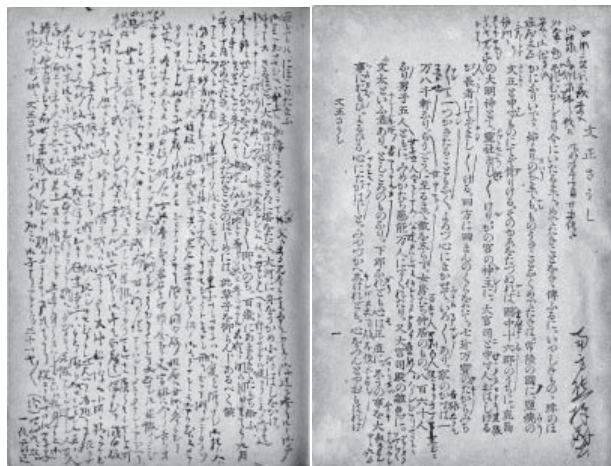
南方熊楠^{かきいれ}の書入は未知の情報の宝庫だ。古今東西の様々な文献（時には伝聞記事も）であられている。その一つ一つは知られた情報であっても、『蛤の草紙』に『大唐西域記』、『弁の草紙』に『越前名勝志』など、たとえば日本の中世文学の研究者が容易に結び付けられる知識ではないし、発想でもない。その意味で、それらは、熊楠がどのようにそれらを読んだかを知ることができる貴重な記録であり、言い換えれば、今後の研究に示唆を与える論考未満の思索に満ちているといえることができるだろう。

さて、ここで取り上げたいものは、そうした書入の中ではやや特殊な価値を持つものである。すなわち散逸文献を復元できる事例である。それは明治34年刊行の今泉定介・畠山健校訂『御伽草子』(和911.16)に収録される『文正草子』の書入である。

この物語は、鹿島神宮の大宮司に長年仕えていた正直者の文太(のちの文正)が、故あって奉公を止められ、鹿島の浜で塩焼きとして働くようになった。そうしたら、その塩の良さが評判となって、たちまちに富貴の身となる。さらには鹿島明神に祈願して授かった二人の才色兼備の娘たちがそれぞれ帝と関白子息の妻となって子を為し、ついには自身、大納言に大出世するという、庶民の立身出世物である。

熊楠はこの作品を中瀬三児から借り受けた(日記・昭和8年12月19日の条)。そしてこれを写し始めたのは、借用してからおよそ4ヶ月を経た昭和9年4月25日夜のことであった。どのように写しているかという、活字本文の傍らに細字で墨書しているのである。一見してわかる通り、その書入の量は尋常ではない。つまり活字本文に対して異文が多すぎるのである。ここまできると、通常なら異本と判断して別紙に書写したほうがよいはずだが、熊楠はそれをしなかった。理由はわからないが、単に深く考えずに校合^{まようじ}というかたちで写し始め、結果的に両本文の関係性が分かりづらい書入になってしまったのかもしれない。

校合対象となった中瀬本とはどういったものだったのだろうか。熊楠は巻頭に次のような書入をしている。「外套ノ題籤ニ御伽草紙塩屋文正三巻トアリ傍側ニオトギサウシシホヤブンセウトアリ」。題籤に「御伽草紙塩屋文正三巻」と記されている。その傍らには「オトギサウシシホヤブンセウ」ともあるという。振り仮名かどうか詳らかとしない。題籤にある通り、上中下の三巻から成るが、本文のどこで分かれるか。幸い熊楠は上中両巻末尾に「巻上終」・「巻中終」と注記してくれたおかげで、三巻の構成を知ることができる。それぞれの巻首は上巻「それ(ナシ)むかしより今にいたるまで」、中巻「去程二天下ノ御所へ参り玉ヒケル中二」、下巻「然ルニひめ君ありし硯の下ノ文ノ後八」である(傍線部の漢字・片仮名表記が書入)。本奥書はなく、原本の書写時期や来歴は不明であるが、各巻頭が判明することは、中瀬本の系統的位置を考える上で有益な情報だろう。これを熊楠が書写し終えたのは、巻末の書入によると「昭和九、五、一夜二時過、」であった(写真左下参照)。つまり



4月25日から11日間かかったわけである。

本文の詳細な検討は後者に譲るが、差し当たり指摘できることは、中瀬本は『文正草子』の中でも実践女子大学図書館蔵写本、国会図書館蔵絵巻(元横型奈良絵本)などに近似する本文を持っていたということである。この系統全体の特徴は、絵を伴わない写本や奈良絵本(絵入写本)であり、その一方で版本は確認されない。すなわち熊楠が写した中瀬本もまた版本の写しではなく、世々転写されてきて熊野本宮の所蔵に帰した写本系の一本だったということになる。中瀬本それ自体が今どうなっているのかは不明であるが、少なくとも、熊楠が丹念に『御伽草子』の余白に写しておいてくれたおかげで、記録として保存されたわけである。

このように、『文正草子』の書入は恐らく表記上の改変や意図せざる誤字脱字はあるだろうが、それ以外において中瀬本の本文をほぼ忠実に復元できるほどの充実したものであったと認められる。今後、精査することで、より明確に系統的な位置が明らかになるだろう。これについては改めて別稿で論じることにはしたい。

CONTENTS

第24回南方熊楠賞 授賞式	…2
南方熊楠賞受賞記念講演 石毛直道	…3
第25回 熊楠をもっと知ろう！講演会 横山茂雄	…12
第26回 熊楠をもっと知ろう！講演会 平川惠実子	…22
第26回 熊楠をもっと知ろう！講演会 岡崎真人/土永知子	…27
第27回 熊楠をもっと知ろう！講演会 小峯和明	…32
第27回 熊楠をもっと知ろう！講演会 マティアス・ハイエク	…34
第27回 熊楠をもっと知ろう！講演会 鈴木広光	…37
第27回 熊楠をもっと知ろう！講演会 鈴木広光	…43
南方熊楠蔵書『一角纂考』について 郷間秀夫	…52
書簡の杜(十一) 岸本昌也	…54
海辺のクマガス 第六回 安田忠典	…56
南方熊楠を訪ねた澤田秀三郎 矢野倫子	…58
南方熊楠と同級生たち 田村義也、古谷雅道	…63
熊楠メモランダム《8》 杉山和也	…68
書評・書籍紹介 萩原博光、志村真幸	…69
夏季研究会報告	…72
増尾先生追悼文	…74
第40回月例展のごあんない	…76